

トーク DE 青年会議 SHOW!

帯広市長

米沢 則寿様

星の花
福岡 通男

帯広JCC第六十代理事長

金澤 宗一郎君

帯広市と共に歩んだ運動と 帯広青年会議所の未来について

金澤理事長(以下金澤) 本日は貴重なお時間を頂戴し、このような対談の場を設けさせていただきまして、誠にありがとうございます。帯広青年会議所にとっても、米沢市長との対談は貴重な時間です。また、これが更なる活動や運動につながっていくようにしっかりとやっていきたいと思います。よろしくお願いたします。

まずは、直近となります2月2日〜2月4日に青年会議所の伝統と長い歴史の中で培われてきました事業である、おびひろ氷まつりについてお話をさせていただきましたと思います。帯広青年会議所とおびひろ氷まつりの歴史ですが、おびひろ氷まつり自体は昭和39年からスタートしておりまして、帯広青年会議所としては昭和49年から関わらせていただいております。当時は、甘酒やおしるこの無料配布といった形から参画させていただいております。その後、帯広市民との交流を図るべく、昭和55年に回転ソリや雪像などを制作し、市民や子供達の笑顔のために協力させていただいております。本年もおびひろ氷まつりで毎年恒例となっている回転ソリと子供達をチューブに乗せて滑るチューブスライダーで帯広市民との交流を図りました。

米沢市長(以下米沢) 僕自身は帯広で生まれ育ったのですが、昭和49年までしか帯広にいなかったのですが、回転ソリの記憶がなかったのですよね。今年で8年目になりますけど、子供達がつとも楽しみにしていますよね。興奮している子供の声を聴いているのは非常に楽しいし、初めて見た時になって大変なことをやっているのだろうかと思いました。でも、やっぱりソリを人力で回していくこと、ものすごくわかりやすい単純なもの不思議な組み合わせにみんな喜ぶのだろうね。この間、テレビに室

蘭で同じようなことをやっているのが写ったとき、僕の室内は「どうして帯広を映してもらわないの」と言っていました。そのくらい、みんなが知っていることになっているのですよね。今後、まちづくりの中での祭りには、子供というテーマが必ずついて回ると思うのですけれど、今年もここに行ったらこれがあるよねっていうようなものを続けていただいていることは、我々にとって非常にありがたいと思うし、若い人達がやってくれていることがほのぼのとしているじゃない。我々から見ると若いなあ！って思うし、皆さんが元祖としてやったこととして今後も続けていただきたいなと思います。とにかくわかりやすくいいですよ。手作り感があって、洗練されすぎているわけでもない組み合わせが好まれているのだろうと思います。お金のかかったアミューズメント施設で遊ぶことに、小さな子供は比較的慣れているのだと思うのですけど、あの場所ですりをまわす際の氷の音とか手作り感などが身近に感じるのだと思います。札幌の雪まつりが市民の祭りではなくってきたという声をよく聞いたりします。観光客のための祭りという声をタクシーに乗ると聞いたりしますが、帯広の氷まつりはそういうものじゃなくて、市民の祭りだという意識がとても重要だとつくづく思っていて、外国の人達が増えれば増えるほど、たぶん特徴が出てくるのではないかと思うのですよね。皆さんが羽織つてくれている牛の法被なんて帯広らしいし、地元の子供達が自分達のお祭りだとして喜んでくれていて、それを地元の人達が微笑んで見ているところが、帯広青年会議所が続けて参画してくれている意味付けとして今後も続いていくのだと思います。

金澤 帯広青年会議所は会議所と言われていますので、



2018年2月 第55回帯広氷まつり 回転ソリの様子

効率ですとかデジタルというものよりも、アナログを徹底的に追及していく中で本質を見出す団体です。氷まつりの中でも回転ソリの部分にモーターを付けて人に負荷をかけないようにしたらどうかという議論が何度もあったのですが、最終的には人力にこだわっているという経緯もあります。氷まつり自体はもちろん目的があつて行っていますが、その中で帯広青年会議所ではボランティアという部分に、目的を見出して行っております。青年会議所の三信条と言われる修練・奉仕・友情というものが、おびひろ氷まつりの準備期間も含めて、約3週

間程度の中で凝縮できる内容として行っております。今年加入した8名の新入会員のための氷まつりと言っても過言でもなくて、この期間はプレハブの中で昼夜過ごしていきますが、新入会員だけ別のプレハブを設けています。そこで新入会員同士の交流や絆も作っていきますが、夜寒い中で手作りにこだわって回転ソリ等を制作したり、その後に賄いを振舞っていつて、その賄いも少し大盛りで頑張つて食べたり、帯広青年会議所のOBの方にも夜に激励に来ていただいて、帯広青年会議所の歴史や伝統を伝えていただいたりして深夜0時に終わるということを繰り返します。その中に修練や友情があり、氷まつり当日には子供達の笑顔があつて、最後にメンバー全員がやっていたよかったという思いになって、帯広青年会議所の1年の活動が氷まつりから始まります。

米沢 先程、お話があつたように全員が共通の目的を持って、そこに到達するために寒い中で行っていくプロセス自体が非常に重要だと思うし、最後に子供達の笑顔で成果として確認ができるということが非常にシンプルな世界だと思えます。そういうことが、JCIのメンバーからするととても重要なプロセスなので、是非、今後も続けてほしいし、回転ソリにモーターをつけるというような議論もあつたことでしたが、手押しを継続しているということは、つらい方がいいのだということだと思えます。そのつらさや大変さを見ている人達は感謝しているのではないかと思います。これまでの先輩達の歴史を継続して残していつてほしいと思います。

金澤 子供達も本当に楽しみにしていますし、その子供達が大人になったときに回転ソリがあるということで次代の子供達へつながっていくことが、我々の成果だと思

ますので継続していきたいと思えます。

米沢 今年度のアトラクションの来場は、3,600名も体験していただいているんですね。すごいですね。

金澤 今年は、花火が3日間続いたのもあり、回転そのの運営時間としては、例年よりは少し短かったと思いますが、約300セットを実施しました。1セット3回転ほど回りますので、距離にすると約40km弱ほどになります。

米沢 すごいよね。これを昭和50年代から継続しているのだから、素晴らしいものだよ。段々累積していくとストーリーができていいよね。ここから、ここまでの距離を進んだのだとか。

金澤 去年や一昨年は、十勝の中でどこまで行ったかということを表したこともあり。昨年は大樹の手前まで到達しました。また、青年会議所では、献血センターの誘致を進めていた歴史がありまして、そのきっかけとしておびひろ氷まつりの中で昭和50年に献血センターの設立に向けた署名活動を行いました。現在は、長崎屋の前で年に2回献血の啓発運動を行っています。こちらの活動は、厚生労働大臣表彰をいただきました。公益社団法人日本青年会議所でも、この活動は先駆的な活動で献血自体も増加している状況でこちらも継続していきたいと考えております。

米沢 これから、高齢者が増加していく中で手術などの増加により、血液の需要はより増えると思います。その中で皆さんが行っている活動はこれからの社会が要求する部分により沿ってくると思うので引き続き、行っていただきければと思います。

金澤 次にクリーン・キャンパスについてお話をさせていただきます。

きたいと思えます。こちらは北海道知事賞を受賞したものののですが、帯広青年会議所は1998年から環境問題に取り組んでおり、2001年からは市民と行政が協働で進める清掃活動として、クリーン・キャンパス21の名称のもと活動しております。今は、よさこいを踊るExcitationというチームの方に引き継いでいただいております。こちらも帯広青年会議所のOBの黒田先輩を中心に進めていただいております。毎年、全体清掃が2回ありまして、その他は各団体で年に数回行っております。帯広青年会議所も全体清掃を含んで年に5〜6回清掃を行っております。街中を清掃していると帯広市は他の地域に比べて本当にゴミが少ないと感じますし、また清掃している中で応援もしていただけです。その中で感じることは、ゴミを拾うのではなく、ゴミを捨てないと思わせるのが目的だと考えております。

米沢 おっしゃる通りですよ。ゴミを捨てるなど言う前に捨てられないと思わせることが重要だと考えております。強制的に、ゴミを捨てるという罰金というような形ではなく、とにかくきれいにしておくことが重要ですね。帯広市民の皆さんにはご尽力いただいているし、その中で帯広青年会議所の皆さんには長年ご協力いただいていることを感謝しております。帯広を訪れる方々の中で特に外国人の方々の方がきれいな街だとおっしゃいますね。帯広のことをクリーンなイメージとして感じていただいているのはうれし、我々は環境モデル都市ということとを謳っているのでそのコンセプトと皆さんの活動が重なっていますよね。毎年フードバレーマラソンの際にも各団体に協力いただいております。最近、外国を訪問した際も帯広はやっぱりきれいな都市だなと感じました。ごみ



2017年10月 クリーン・キャンパス・21の様子

が落ちていないから他のところもきれいに保てているのだと思えます。ごみが落ちてくるような街は、落書きなどもひどいですし、一事が万事という風に思えます。この活動も代々引き続き行っていたらいいと思います。

金澤 ニューヨークのジュリアーニ元市長が電車の落書きをなくして、犯罪を激減させ、街並みをきれいにしていたという話も聞いていたので、我々はごみを拾う運動をしていくのではなく、ごみを捨てない運動をしていくことが必要でそのモデルになればいいなと思いました。

米沢 小さなことなのだと思うのですよ。よく半分冗談っぽくコメディなどで昔の軍隊かなにかで整列した際に



糸くずがついていたり、靴の磨き方が悪いと注意されたりする場面がありますよね。あれと同じようなことだと思います。小さなところにそういうところがでてくるから、そこを注意するということは、他の全体に対してはもつと目が行き届いているという考え方を、世の中全般はするのだと思います。我々もこんな小さなことだからいいのだと言って無視しないで、ごみのような小さなことでも、そういうところに若い皆さんが積極的にいろいろなことをしていただけることは、社会が変わっていくことだと思っております。是非今後もしよくお願いいたします。

金澤 今年、私が希望というキーワードを用いて、帯広

市民やとちちに向けて希望溢れる未来を創造していくという対外向けのテーマの裏に、帯広青年会議所メンバーに向けたテーマが、今と誠実という2つを私の方針の中で使わせていただいております。当たり前や小さいことが積み重なっていくことが誠実につながるのだと思っています。誠実というのは薄っぺらいもので誠実さというもの、いつかメッキがはがれてしまうものだと思います。まして、だからこそ誠実を裏付けするものが品格と教養だと思っております。品格や教養は際限がありませんので、ここをしつかり磨くことで、誠実さというものがすごく重要になってきて、それが仕事や家庭、青年会議所活動の中で必要なものであつて、だからこそ私は今がとて大切だと思っております。過去があつて今があつて未来があつてという時間軸があるのですが、青年会議所というのは今年の12月31日までの未来をまずデザインして、流れおいてくる選択肢の中で今何をすべきかということを選択することができて、それが過去になっていくということです。青年会議所の時間軸というのは未来、今、過去につながるものであつて過去の評価というのは、今の生き方で変わっていくことを最近気づきました。過去の歴史は変わらないですけど、過去の自分の評価というのは、今の生き方でどうやっても変えることができると思います。だからこそ未来を選択した中で今をどうやって誠実に生きていくかを青年会議所メンバーに伝えさせていただきました。

米沢 僕なんかが言うとか笑われるかもしれませんが、国会とかで色々な議論を戦わせるときに、真摯にとか誠実にとか、一番遠いような人達が話しているのだけれど、大上段に振りかぶった議論をするときに本当はそういう

た言葉を使つてほしくないなと思つていて、さっきの教養とか品格とか話があつたけれども、それをいい大人が前面に出していくあざとさが増えすぎていると思います。皆さんからはそんなあざとさは感じませんよ。それは売りにする言葉ではなく、自分に問いかけるべき言葉だよ。これが票の話になると、下品な政治家がやる票を取るためのかっこいい言葉に使われたら、僕はすごく不快に思います。でも、金澤さんの言葉を聞いていて、メンバーの皆さんの行動指針としてあるのはとても大切だと思つて、他人がどう思うかというよりも自分がどれだけ恥ずかしくない努力をしたかとか、昔の簡単な言葉で言えば、正直に生きているかとか、誠実さとか、みんな同じことだと思ふのだよね。勉強していることが教養だと思つている方がたくさんいるけど、違うよね。教養ってリベラルアーツって言いますが、新しいことが生まれてきたときや困難にぶつかったときに真剣に考える力を持つことが教養だと思ふのです。おしやれなことをやるとか文化的な活動をするのが教養ではなく、新しい困難にぶつかったときにおたおたしないでしっかりそれに向き合つて、自分なりの回答を出していくことができることが教養だと思ふし、そのときに相手の気持ちをきちんと考えてあげて、押し付けにならないようにとか傷つけないようにとか、そして相手の立場に立つてあげることができるといふのが品性があるついでだよ。こういうことつて口に出して議論すべきだと思ふのです。僕の年になってこれを言うと恥ずかしい年代だけど、皆さんの年代は聖と俗がぶつかるぐらいの年代だから、たくさん言葉を掛け合った方がいいと思ふ。やっぱり同世代でさつき紹介いただいた回転ソリなどのいくつかのアクティビ

ティをやるときに 一緒になつてそういう会話をしていく
といいと思います。共通の目標とか目的、やるべきこと
を決めて、それを達成していく過程で議論を行つていく
とすごく深い1年間になると思うのですよ。それをやら
され感で面倒くさいと思ひながらやるのと、今話したこ
とを意識し合ひながらやるのでは、最後の成果が違うと
思うので思ひつきり青臭くやつてほしいです。

金澤 青年会議所は、青年経済人の団体で、本業があつて、家庭があつて、それぞれの団体にも所属して、いくつかのわらじを履いて、自分に負荷をかけていくということが青年会議所という団体です。その中でどうしても最近、本業と家庭などのバランスから青年会議所の運動、活動に際して、以前と比べてしまうと、私の想う理想の青年会議所の運動、活動につながつてきていないと感じている中で、今年度のテーマとして誠実をキーワードとしております。また、本年で帯広青年会議所が60年という節目を迎える中で新年交礼会でもお話をさせていただいた通り、60年という人間でいうと還暦にあたります。再び生まれた年の干支に戻るといふ意味から本家還りということを考えて中で、青年会議所も過去に感謝し、創始の精神を引き継ぎながらもしっかりと未来を見据え、その中で今をどうやつて選択しようかと考え、本年の帯広青年会議所の柱の1つにスポーツを通じた強い共生社会の実現とし、東京五輪が決定してからスポーツ庁も創設されて、東京五輪だからということで東京だけではなく、しっかりと観光やスポーツなどで帯広をPRしていかなくてはならないと思います。また、札幌の五輪への誘致活動では、スピードスケートも帯広で開催される予定の中で、スポーツのあり方もするだけ



ではなく見ることや支える観点からスポーツが地域にもたらすものを、青少年育成事業を含めて考えていきたいと思ひます。最終的には、帯広市に何か提言できるものを作り上げていきたいと考えております。もう一つが、地域に必要とされる人財の育成についてです。我々、帯広青年会議所はキャリア教育を推進しております。子供達に職業の選択肢の幅を広げるような運動を行つてきたのですが、帯広青年会議所メンバー自身も地域に必要とされる人財の育成をしていかなければならぬと思ひまして、青年会議所へ加入したのであれば、企業の利益を一番に考えるのはもちろんなのですが、やは

り地域が発展して初めて企業の発展があるということを考えていただきながら、地域に根差して会社を大きくした講師の方をお招きすることで、自分の企業にそれを置き換えて地域と企業の関連性をうまく活用できるかということを考えていただける事業構築を1年間かけて行つていきたいと考えております。

米沢 スポーツの話もそうですが、一時期からみると人と人との接点が希薄になりつつありますよね。そういう意味では、人とつながる機会としては健康やウェルネスという単語が入ってくるともともと幅が広がってきますよね。町内会がうまくいっていないという話を聞いたりしますけど、そこだけに注目しないで、今までは違う人と人とのつながりに注目して、その中で人間関係をどう構築していくかということも一つだと思ひますので、スポーツという切り口で議論していただくのもいいなと思ひます。それから人づくりに関しては、できるだけ色々な人に会つてみるのが大切だと思ひます。今日、何人と会つたかとか、今年の青年会議所のコアなメンバーは1日30人と話すとか、目標を持つてやつてみるということが重要で、やつてみたのとやつてみなかったとの差を感じていただけたら面白いなと思ひました。それと最後に言つていただいた会社ですけど、会社って公器なのだよね。公の器なのです。プライベートな会社であつても同じだと思ひます。個人のものではないです。公の器を使いながら何らかの社会貢献をする。彼らがつくる価値に対して対価が払われ収益につながるというところで、この順序は逆ではないと思ひます。皆さんはだいたいが会社に属されているかと思ひますが、会社って何なんだつて点について、これもどんどん真剣に

話してみればいいと思います。全員、違うことを言うと思います。それぞれの会社には企業理念があり、それを持つている組織とそれを曖昧にしている組織では、様々な局面で企業の体力や抵抗力について、ものすごい差が出てくると思います。皆さんは、これから会社の幹部や社長になられる人達だと思いますので、会社について青臭い議論でも何でもいいのですが、どんどんやっていただいて、社会奉仕をしてほしいとは言わないですが、企業経営そのものが実は社会に対して何らかのインパクトがあるから、組織として認められて社会で優遇されているわけです。まずは、企業経営をきちんとやっていくことが重要ですし、それだけやっていると社会が見えなくなるので色々な人と話をしていくことが大事ですね。議論っていうのは、いいねいいねというくらいの議論ならば、深まりませんよね。それは違うよねとか自分はどう思う、ということを多少不愉快に思っても言い合えることが、皆さんの活動の中で作っていければ、今回の1年だけではなくて皆さんが綿々と作り上げていく人間関係の中で、帯広の青年会議所の企業経営者のつながりが強くなります。そこをおさなりに表面だけでやっていくならば、時間ももつたいないということになります。僕は若い時に日本人ぐらい働く人種はないかと思っていました。ちょうどロンドンに行く機会があつて、イギリス人は遊んでいるのだからと考えていましたけど、僕の同業者は、僕の数倍働いていました。みんな週末には家族と一緒にいないです。どれだけ情報が歪曲されて日本に入ってきているかということですね。ロンドンには階級社会で本当のトップにいる人達は、ものすごい使命感で働いています。よく勉強もしています。あれを見てショックでした。

日本は真ん中の層が多いですが、今は中間層が少なくなつてきて構造が変化してきています。そのときに残っている地域は、頑張っている人達の層が多い地域だと思います。問題意識を持つて志を持つて経営している会社が多い地域が、最終的な地域間の差になっているのではないかと思います。そういった意味では、私もイノベーションプログラムなどで色々なものをスタートさせて揺らしているのだけれど、教科書を読んでわかる話ではないので、仲間を作つて侃々諤々議論を行つてほしいし、青年会議所にポジションをもらつているこの1年を思いっきり活動していただいて次にバトンタッチしてほしいなと思いますね。

金澤 このような市長との対談も青年会議所のバッジと名刺をいただいで実現したものだと思いますし、もちろん今年度、理事長としてというところもあります。青年会議所の名刺とバッジは魔法と言われておりまして、青年会議所の名前を出せば、どこにアポをとつても毛嫌いな言われれております。

米沢 それは、今までの先輩に感謝しなきゃいけないね。
金澤 そうですね。それこそ、日本青年会議所では総理大臣などにお会いすることもできますし、青年会議所はよく「人は人でしか磨かれない」と言われていて、価値観が根底からぶつかり合つて、価値観が変わる団体だと思つています。私も入会して、人と人との距離感を適度に保つのが一番楽だと思つていましたが、それを相手方がどんどん意見をしてきたり、理事会などでも半ば喧嘩のような形になったりですとか、普段から言い合ひで僕はこう思う、私はこう思うという話の中で、それを実践できるのが青年会議所のいいところだと思いま

す。これは、青年会議所だけではなくて、他の団体や行政などでも同じようにやつていければと思います。
米沢 それは、そうですね。やっぱり一つのカテゴリの中だと、所詮そのカテゴリだけの発想だから。色々な人と会うといいです。それこそ名刺を有効に使つて。これはチャンスだよ。僕も市長になつたのはそれもありますしね。市長の名刺使つたら何ができるのかなと思つて。色々な人に会えますよ。この間、いつまで市長やるのですかつて聞かれたので、人間に対しての興味がなくなるまでと答えました。やっぱり人と会うことは楽しいから



色々な人と話して、その上で何かの選択をしていくのが僕の仕事ですので、そういう意味で僕もたくさんの人と会いたいと考えています。

米沢 最後に、帯広青年会議所への今後の期待ということで、臆せずやっていただきたいと思います。今と未来と過去という話もしていましたが、今日失敗しても明日成功すれば変わるから。段々残り時間が少なくなるとアドバンスが減ってくるから、今の皆さんが活動されている中で試したいものや見てみたいものに臆せずアプローチしてほしいなと思います。皆さんの世代の感性で見えないものがあるのだと思います。自分もだんだんこの年になつてくると前なら簡単にできたことができなくなつてくるのですよね。その代わり、この年でおかつてくることもあるのですけれど、だんだん動かなくなつてくることもあるのですよね。若い人は感性で即動けるところに意味がありますよね。逆に動きがない若者に意味はないですよ。何かあったときに自分の感性で動ける点が、僕達には敵わないです。まず動いてみて、その感性の中で帯広の街はこうあるべきだとか、帯広のビジネスはこうあるべきだということについて声を上げてほしいです。そこは遠慮しないで声を上げてほしい。僕らも、皆さんの世代はこう思っているのだということ聞かせてほしい。ただ、勘違いして何言つてもいいというわけではなくて、真剣に考え、思っていることを伝えてほしいです。そして、かつ動いてもらつて見事に転んでほしい。したら僕が助けに行きますから。それがあつた地域が元気の地域だと思つてほしい。子供つて転んでまた立ち上がるじゃないですか。2歳や3歳になつたら自然と高いところにも上りますよね。それをなんで大人はやめちゃうのですかね。怖いからだと思つてしまいますよね。今のビジネス社会においても、大きな怪我をしないように転ばなきゃいけないとは思いますが、はやく動いて転ぶのは怪我が少ないと思つてほしいです。いつまでも動かないでいて、みんなが行つちやつたのを見て焦つて走つて転んだら、おいでいれますから。そういう面では青年会議所にはそういった視点から皆さんの中だけで議論するのではなく、色々な意見を聞かせて下さい。それを期待しています。

金澤 ありがとうございます。青年会議所は知識、見識はそうなのですが、胆識が重要な団体だと思つていて、12月31日までの1年間の活動の中でそれを

必ず実行するというのが重要で、失敗してもいいからとにかく実行するという形がトレーニングにもつながりますし、青年会議所は100%努力した中で失敗が許される団体だと思います。

米沢 走つてみないと怖いこともわからないですよ。走りもしない、自分でリスクも取つていない人は胆識なんて大きくならないです。ギリギリのところ動かないといけないじゃないのかなと思つています。そういった中で成長することを期待しています。頑張ってください。

2018年2月16日(金)帯広市役所にて

制作：一般社団法人帯広青年会議所
2018年度 広報渉外委員会



米沢 則寿

PROFILE

帯広市長。1956年、北海道帯広市生まれ。北海道大学法学部卒。

卒業後、旧石川島播磨重工株式会社(現・株式会社IHI)に入社、中近東アフリカ向け化学プラントの輸出に携わり、一時アルジェリアに駐在。石川島播磨を7年で退社し、中堅・中小企業に投資・成長支援を行う会社、株式会社ジャフコに入社。2000年からは役員として経営に参画。2005年2月、ジャフココンサルティング株式会社の取締役社長に就任。2010年に帯広市長へ就任。2014年から帯広市長2期目に就任する。